

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100022		
法人名	日本ロングライフ株式会社		
事業所名	ラビアンローズ宝塚		
所在地	宝塚市泉町6-6		
自己評価作成日	平成30年4月23日	評価結果市町村受理日	平成30年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お客様第一主義」の実践に全社員が取り組み「全てはお客様の笑顔のために」をホームのスローガンとしお客様お一人おひとりにあったサービスを全スタッフがご提供しています。お客様が今まで過ごされてきた人生背景「文化と背景」を尊重し、ここに暮らしたいと感じていただく「心地よい空間」、お客様のプライドと尊厳を守る「質の高い身体ケア」この3つの要素を柱とし、ずっと自分らしく生きたいという当然の欲求に応えるため愉しみからライフスタイル全般までそのプログラムや環境をアレンジしながらプロデュースする全人的ケアを実行しています。会社、ホームでの定期的な研修制度も充実しており全スタッフの意識向上に繋がっています。地域へのホームイベント声かけやコミュニティ会議、事業者協会会議への積極的な参加、地域包括と連携しながら認知症サポーター養成への参加、また宝塚認知症オレンジロバネットワーク活動通してRun伴2017に参加し地域との繋がりを構築し親しまれるホーム作りを行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前庭と中庭の草木は手入れが行き届き、建物の内外ともに良くメンテナンスされている。法人の「福祉こそサービス業である」という方針の下、心豊かなセカンドライフを創造する「高級ホーム」の雰囲気は漂っている。法人独特の資格である「グッドフィールド・コーディネーター」が右脳活性化ドリルなどの多彩なイベントを企画し、「サービスディレクター」がケアマネと共に職員を指導している。毎朝、職員が輪になって、お腹の底から「わっはっは！」と笑うことで気分を盛り上げ、「最高の笑顔で最高のサービス」を届けることを心掛けている。職員は利用者ごとのサービスの短期目標の内容を見ながら日々のケアを行い、ケアの現場を重視するケアマネのモニタリングノートが次の計画策定へとつながっている。事業所の上質な環境の中で、更に質の高いケアを目指されるよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様第一主義」を会社、ホームの理念とし、「全てはおお客様の笑顔のために」をスローガンにお客様目線を常に考えいつまでも安心して楽しく暮らして頂ける様に努めています。毎日、勤務前に社員手帳の理念唱和を行い意識の共有に努めています。	「全てはおお客様の笑顔のために」を実践する為、朝礼時に職員が集まり「嬉しい、わっはっは！。楽しい、わっはっは！」と大きな声で唱和し、まず職員が笑顔を作ってから1日のケアを始めている。「ケアサービスは、声掛けに始まり、声掛けに終わる」という方針を職員に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム犬のお散歩時やホーム前の公園の掃除などで毎日挨拶を交わし地域の皆様に認知して頂き、愛されるホームとしてホーム内イベントを地域の方々にもお知らせしお招きしています。また、地域包括と連携して認知症サポーター養成に参加し地域との交流に繋がっています。	近隣に自治会が無く、地域の情報は主として民生委員から得ている。前庭や事業所内で和太鼓などの伝統芸能のイベントを開催し、地域住民にも案内している。事業所前に「生活なんでも相談所」の立て看板を置き、住民との触れ合いに、オープンな姿勢で臨んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーの職員とお客様向けの認知症サポーター養成講座のファシリテーター、コミュニティー会議などへの参加、宝塚認知症オレンジロバ活動でRnu伴に参加し知って頂く機会を持つようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度から定例日を固定し、民生委員、介護保険課担当者、地域包括、社協、ご家族様に開催参加のお知らせを行い、参加が難しいご家族様には事前のご意見をお聞かせ頂いている。ホームで実施している研修のご案内も行っています。	参加者からの要望で開催日を固定して以来、参加率が上がった。事業所前の道路に面した門扉の施錠と、身体拘束の関係についてのQ&Aの中で、事業所の方針を説明して納得を得た。議事録を「報告」の形で全家族に送っているが、市には提出していない。	議事録を市に持参し、担当部署とのコンタクトを深める手段にされたらどうであろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の手続きだけでなく、事故報告などの連絡や、質問相談など細かくとるように心がけております。宝塚市地域包括ケアシステム研究会に随時参加し様々な関係者との意見交流が行われ顔が見える関係性に繋がっています。	運営推進会議への出席者が変わった場合は、その都度事業所内を案内している。毎月開催される地域包括ケアシステム研究会に参加しており、地域包括、医師、看護師、民生委員、福祉事業所管理者、市民などと情報交換と意見交換を行って、関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月からの法改正に伴い、さらに内容を正しく理解し実践していく為に研修を行いました。身体拘束(玄関の施錠も含め)に関する研修を必ず行い、職員全員の知識と意識を向上させる取組を実施しております。	車椅子用の安全ベルトと、赤外線離床センサーを使用している利用者が夫々ある。使用開始時と継続時に必要性を検討し、家族にも説明して記録に残している。門扉を電子ロックしているが、外へ出たがっている利用者を見れば、職員は付き添って出掛けるように心掛けている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症についての知識と認知症がもたらすBPSDについて学習する機会を必ず設け、合わせて身体拘束と虐待についても折に触れて話し合いをすることで意識を高めています。スタッフのストレスにも目を向け適宜面談も実施しています。新人スタッフはもとよりベテランスタッフに対しての意識づけにも取り組んでいます。	身体拘束排除とともに、研修に力を入れる方針である。研修の中で、声掛け時にはイントネーションにも注意を払うように指導している。職員のストレスを軽減する為に、管理者は相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。法人のリスクホットラインシステムがあり、職員は直接顧問弁護士と電話で相談ができる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用中のお客様もおられ定例研修の中に日常生活支援事業や成年後見人制度のテーマで学習の機会を設けている。適切に繋げて行ける様に内容共有に努めています。	成年後見制度を利用している利用者が数名あり、毎月来訪する後見人もいる。契約時には制度の紹介を行っていない。制度に関して知識を持っていない新人職員もいる。	契約説明時に家族に渡せるような簡単な資料を準備し、それによって職員も学ばれたらどうであろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には会社専任のアドバイザー及びホーム長の立会いで契約書内容の十分な説明と家族様のご理解の確認、また見学時から様々な疑問点の解消に努めています。	約2時間かけて丁寧に説明している。今年度から「看取り介護に関する指針」を説明することにした。管理費についての質問が多いが、その中に含まれているイベントの内容などを説明し、納得を得ての契約となっている。昨年、食費を上げる際、臨時的に利用者の家族に集まって貰い、値上げの理由を説明して納得を得た。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において運営についての説明をさせて頂き、疑問点やご要望についても発言して頂いています。また日頃から面談や電話連絡をさせて頂き発言しやすい関係性の構築に努めています。	法人として、入居3か月後に満足度調査を行っており、要望を記載する欄もあるが、その時点では個々のケアに関する事項が多い。要望によって、運営推進会議の開催日を固定化することで出席率が上がった。遠隔地の家族とは、メール交換によって要望などを聴く機会を作っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングにおいて、会社並びにホームの状況説明と方針指示を行っています。具体的な業務推進方法等については現場の問題をフロアミーティングや個人面談にて解決しながら納得の上職務に当たれるようにしている。	毎月のフロア会議にはケアマネも参加し、月末に開催される全体会議には総ホーム長も参加して、職員の意見を聴いている。食事介助を担当した職員の昼の休憩時間の取り方、女性職員専用の更衣室、旧くなった電化製品の買い替えなど、多くの要望や意見を実現に向けて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、個人面談も実施の上、普段の職務内容と実績結果を踏まえて評価するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者については月2回の会議を催し、会社としての状況説明と指示・疑問の解消等を図り、職員についても正社員やパートごとに介護技術の研修や会社の理念の研修等を定期・不定期に行っている。また規定の研修を受ける際には、教育訓練休暇(有給)を付与し、受講機会確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークや外部研修などに積極的に参加する事で病院、介護事業所の方がたと意見交換の場を持てるようにしている。		

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご契約、ご入居頂く前にホーム長、ケアマネジャーがご本人様と面談させて頂きお体の状態や不安に思われている事、希望する事など寄り添う視点でお聞きし信頼関係を築く第一歩として傾聴を意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特にグループホームという事もあり、ご家族様の悩みに寄り添う形で傾聴に努めています。ご入居されるお客様の状況も踏まえながら、場面に応じてのご説明やアドバイスをする事もあります。将来様々な形で判断が必要になった時にはこの初期の段階での関係性づくりが最も重要と捉えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基にご本人様、ご家族様にとって必要性の高いものは何か見極め検討している。事前MT,入居後1ヶ月で再MTを実施。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居様同士の助け合いやお客様が出来る事は取り上げずに積極的に家事への参加をして頂き出過ぎる事のないケア、自立支援に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には時間を気にされる事無く普段通りにご来館頂き、ご一緒にお散歩頂いたり、お食事を一緒に召し上がって頂いたりイベントに参加して頂いたり等楽しみを感じながらご協力頂ける様コミュニケーションを大切にしています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方、ご近所付き合いのあった方、など制限を設けず自由にお越し頂ける雰囲気と声掛けをさせて頂いています。また、馴染みのお店にご家族様の協力も頂きながらお出かけ頂き、交流を繋げています。	毎週数回の家族や毎月1回の友人など、来訪者は多い。入居前から馴染みだった理容師による出張サービスを受けている利用者もある。昔の職場仲間の懇親会に、職員が付き添い同行することもある。右脳活性化ドリル、アートセラピー、フラワーアレンジメントなどの豊富なイベントが、新しい馴染みの場となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単な家事やイベントでの作業で連帯感を持って頂き、ご入居様同士の関わりや助け合いを自然に行えるようなお声かけの仕方に工夫を重ねています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りをさせて頂いたご家族様から何度かご相談の連絡を頂いたことがあります。時間の許す限りお話しをさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシート、再アセスメントで人生と背景をしっかりと捉え、思いや意向を把握し、全職員が情報共有出来る様にMTを重ねています。ご家族様、ご友人様からの小さな情報も収集共有し生活に活かすように努めています。	コミュニケーションが難しい利用者が多いが、表情や素振り、口調の強弱で意向を把握している。新しく把握した情報は、連絡ノートに記載し、内容によっては利用者ごとの「エッセンスシート」を更新することによって、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に本人、ご家族様から聞き取りを行います。同意を得たうえで使用中のサービス事業所にも出向き、担当スタッフ、ケアマネ、センター長からも情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL,IADL、健康情報などの現状を把握し、聞き取り、観察に留意してます。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様との面談、サービス担当者会議、フロアMTを定期開催し意見を収集し反映した計画作成に努めています。また状態の変化に応じて臨時会議の開催にも取り組んでいます。	職員は1~2名の利用者の主担当を務めている。毎日のタイムテーブルシートに記載されている利用者ごとの短期目標を参照しながらケアを行っている。半年ごとのモニタリングと担当者会議及び計画の策定を、主担当、計画作成担当者及びケアマネを中心に行っている。家族へは来訪時に説明したり、郵送後に電話で話している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と共に、連絡ノート、ホワイトボードを活用して最新情報を共有し、朝礼夕礼の申し送りにおいても丁寧に行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じた対応を行っています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コミュニティ会議や外部との交流の中で情報を集め、地域に出ていくイベントや地域での買い物など楽しんで頂く為の支援を行っています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を持ち定期往診にきている。24時間医療体制をとっており急病、特変時に対応している。ご入居前からのかかりつけ医受診の支援も行い、皮膚科、眼科通院援助、入退院援助も行っています。	ほぼ全員が協力クリニックをかかりつけ医としている。往診が月に2回、心療内科や歯科、看護師の定期訪問がある。24時間の連携体制によって、緊急時の対応も可能である。地域の総合病院とも協力体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診に同行し、様々な変化など報告、相談している。定期往診以外に毎週一回NSが巡回。健康チェックを受けて頂き、電話でも連絡体制を取って適宜指示を頂ける様な支援をさせて頂いています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様、後見人様と常日頃から医療について話し合いを行い、担当医、NSとも連絡をとり連携に努めています。医療連携室のソーシャルワーカーの方との連携も密に取りように心掛けています。会合や外部研修で顔なじみになるように努めています。	直近1年の間に、数名の入院があった。自立度を減退しないため、出来るだけ早期退院に努めている。入院中は面会に行き、退院時にはカンファレンスで状態を把握するなど、病院関係者と積極的に連携をとるよう努めている。また入院にならないよう、口腔ケアによる誤嚥の予防にも力を入れている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご意向や情報の共有に努め、ご本人様の症状や段階に応じて何度もカンファレンス、ICを調整支援しご家族様、医療、ホームの合意事項を確認。またスタッフの看取り研修も折に触れて行いホーム全体で支援をさせて頂く視点が持てるよう取り組んでいます。	契約時に「看取り介護に関する指針」を説明し、段階的に家族の意向を把握、確認している。必要が生じた場合は家族の同意を得た上で、事業所の対応可能な範囲で終末期ケアを行う。看取りをライフステージの最終段階としてとらえ、家族と一緒に過ごし、その人らしい最後が迎えられるようチームとしてケアに臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当も含めかかりつけ医、NSにその都度ご指導頂き、技術知識を深める様にしています。緊急時の救急要請対応の研修も定期行っています。また、緊急時連絡網にて指示できる体制を整えています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置済。消防設備点検、消防訓練も年2回実施。消防訓練では入居者様、地域の方々にも参加を依頼し避難、消火訓練、AED操作訓練の指導頂いた。	年に2回、夜間想定を含む消防訓練を行う。利用者、民生委員、地域包括の参加協力もあり、確実に避難誘導できるよう具体的な指導を受けた。災害の発生に備え、飲料水や食料品などの物品は用意しており、すぐに持参できる緊急時持ち出しファイル等も整理して保管している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修(中途採用者も全員)を受けている。プライバシーと尊厳を守る事は基本理念として徹底し個人情報保護方針を確立している。ホーム独自でも、着任初日にCMから研修を実施し、様々なMT時に実例を持って注意喚起を行っています。	人格の尊重とプライバシーの確保は基本であり、研修でも徹底して行う。具体的には排泄時の声かけや、入浴時には希望者に同姓介助、また機械浴の利用者には常時タオルで身体を覆った中で洗身を行うなど、訪問入浴のノウハウを活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、お声かけや説明に留意しながら、楽しむ、決める、選ぶなどの支援を心掛けています。意思表示が困難な方においても、「人生と背景」の聞き取りからの情報ご家族様からの情報を元にその人らしさを常に考え支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでもお客様が自由にご自分のペースで暮らせるように支援。毎日の生活の中で体調の変化、お気持ちの変化がある事を認識し臨機応変な対応が大切と折に触れて「お客様目線で」「その方らしく」と声掛けをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問美容サロンを楽しんで頂き、特別な催しや外出の際には正装して頂いたり、日常においても、ご本人様らしさを持っておしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材を選び行事に応じた献立、好みを把握し美味しく食べて頂く為の工夫をしています。外出イベントでお花見弁当を皆さんと一緒に食べられました。オヤツづくりも一緒に行い、盛り付けから片付けまで一緒に会話を楽しみながら行っています。	法人グループ内のすべての施設で同じ献立が組まれ、専属のシェフが厨房で調理する。温かい物は温かく、冷たい物は冷たく、季節感のある食事提供に力を入れている。盛り付けや後片付け、おやつ作りも利用者と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズム表に食事摂取量、水分摂取量を記入し、摂取困難や不足気味の方の把握に努め摂取して頂ける様な工夫を重ねています。適宜かかりつけ医、NSIにも相談させて頂き指導頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケア、ナイトケア、毎食後のうがいなど実施しています。お客様が出来る所はして頂き、その後のチェックとお手伝いもさせて頂きます。身体機能的に重度の方はスタッフがお手伝いさせて頂いています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム表に記入する事で排泄のリズムを把握し促しのお声掛けを行っている。個々の状態に合わせ、自尊心を傷つけない様に配慮し、個々の状態に合わせて排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄前の癖や様子変化を観察しタイミングを計りながらトイレへの促しを行っています。	生活リズム表で排泄状況を確認しながら、利用者の状態によってオムツを使用している利用者も数名いる。なるべくトイレで排泄できるよう定時に、またタイミングをみて誘導している。便秘時の対策はかかりつけ医と相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す食事の工夫や適度な運動を取り入れています。適宜乳製品の提供や朝のラジオ体操等実施しています。また水分摂取にも留意しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日が固定で実施していますが、当日入浴が出来なかったお客様は翌日などで調整して入浴して頂いたり、お一人で入浴可能な方は外で安否確認の為見守りを行いつつ、ゆっくりと入浴して頂いています。入浴剤を選んで楽しんで頂いています。	個浴、大浴場、機械浴と形態の違った浴室があり、週2回を基本に、個別に何回でも入れる。好みのシャンプーや入浴剤を使用し、安全に入浴している。入浴を望まない利用者は、時間をずらしたり、職員を交替したりと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暖かい飲み物を提供するなど自然な眠りに移行できるように努めている。お客様によっては、日中からだを休める時間を設けさせて頂いたり、ご自身でお部屋に移動されゆっくりとされる事もあります。その際体調確認を行い特に止めたりは致しませんが昼夜逆転にならない様に観察し留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロア毎に薬情ファイルを作成し、いつでも使用する薬の目的、副作用、容量を確認できるようにし入居者様1人1人が指示通りに服用できるように服薬チェック表も作成し支援している。お薬の変更があった場合には観察に努め、リズム表に記載、朝礼、夕礼にても情報共有に努めております。誤薬0運動にも取り組み注意事項の確認を必ず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グッドフィーリングコーディネーター、サービスディレクターを置き、モニタリングやアセスメントを繰り返しその方らしさを活かした役割、楽しみに目線を置き生きがいのある暮らしの実現のため支援している。季節のイベント、外出行事の参加はもちろん、日常の中での役割(家事全般、水やりなど)を皆さんで助け合い実施して頂いています。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの敷地内に園庭が有り、お散歩など楽しんで頂いているが、お茶菓子など楽しみの買物、図書館など外出をご一緒したり、よく通われた近くの公園までの散歩などご希望に沿った外出の支援を行っている。	敷地内の庭園は、自由に散策ができる。車椅子の利用者でも外出できるよう支援している。日常的には、日を決めて近くのコンビニや公園に出かけたり、希望のある利用者は、介護タクシーを利用して家族と映画や歌舞伎などの外出を楽しんでいる。法人が企画した旅行に行く利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金制度を取っており金銭の管理は当方でしていますが、お買物時は職員が付添、個々に応じたお金をご本人様に所持頂いて、お支払の見守りをするなどの支援をしています。ご自身で趣味の手芸用品を購入されたり、自販機で飲み物を買われたりしておられます。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の希望も受け入れながら、ご家族様、ご友人様への手紙や電話など日常的な利用や取次の支援をしています。ご自身で携帯電話を持たれ毎日ご家族様とやり取りをされておられる方もいます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、緑、水、風、花などを感じて頂ける心地よさをコンセプトとした工夫と、自然の豊かさを楽しんで頂く散歩みちや菜園などの空間つくりにより季節を感じて頂く取り組みをしている。懐かしい家具やポスターも飾り、さりげなく回想法を取り入れています。セラピー犬、インコム癒しの存在になっています。	敷地内は緑が多く、手入れされた庭園が散歩コースとして楽しめる。回想法を取り入れたインテリアや昭和の街並みは、ふと足をとめてみたくなる一画である。造園やインテリアなどは高級感とともに調和がとれている。セラピー犬との触れ合い、BGM、採光など心地良い共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く設けており、自由に行動し各所に休憩できる椅子を設置し自由に利用して頂いている。共用リビングにはTVを設置し、好きな方々でスポーツ観戦されたり、懐かしの歌のビデオを見られたりまた、別の場所では静かに読書をされたりと自由な時間を過ごして頂いています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前からの説明で、思い出深い物、使い慣れた物を持参していただき、お客様が安心して穏やかに過ごして頂けるようにしています。また小集団スタッフを中心にホーム内活動のなかでの作品をお部屋に飾って頂いたり、お客様らしく、落ち着いたお部屋作りも行っています。	エアコンと照明が準備されており、ベッドは要望に応じて事業所が準備する。居室の広さや間取りは異なるが、馴染みの家具や小物、自作の絵や自費出版した本を持参している。利用者の主担当が、居室を整理したり家族に必要な物を依頼するなど細やかな配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の動線を考えながら、使いやすさの工夫や高さの調整などの配慮を行っています。		